

Part 1 基本情報

1. マラウィ プロフィール

- | | |
|------------|--|
| (1) 正式名称 | (和文) マラウィ共和国
(英文) Republic of Malawi |
| (2) 政体連邦 | 共和制 |
| (3) 首都 | リロングウェ |
| (4) 面積 | 11.8万平方km |
| (5) 人口 | 1,120万人(2004年 :世銀) |
| (6) 民族 | バンツー系(主要部族はチェワ族、トゥンブーカ族、ンゴニ族、ヤオ族) |
| (7) 言語 | チェワ語、英語(以上公用語) |
| (8) 宗教 | キリスト教が半数、その他イスラム教、伝統宗教 |
| (9) 略史 | 1891年 英保護領
1953年 ローデシア・ニヤサランド(現マラウィ)連邦
1964年 英国より独立
1966年 マラウィ議会党による一党制移行(バンダ大統領)
1993年 国民投票により一党制から複数政党制へ移行
1994年 独立後初めての大統領・議会選挙(現ムルジ政権誕生)
1999年 ムルジ大統領再任
2004年 ムタリカ大統領就任 |
| (10) 在留日本人 | 115名(2005年10月現在) |
| (11) 気候 | 気候は熱帯サバンナ気候帯に属する。気温と降雨量は、36mから3048mに至る標高によって大きく変化する。一年の気候は、暑い乾季(9～11月、平均最高気温摂氏29.4度)、温暖な雨季(11～4月、平均最高気温摂氏26.7度)、涼しい小乾季(5～8月、平均最高気温摂氏22.2度)に大別される。 |

【参考】「『外務省ホームページ各国・地域情勢』外務省

『最新世界各国要覧 10訂版2000』東京書籍

2. 業務のための基礎データ

(1) JICA事務所の概要(マラウィ事務所)

住所 : Raza House, Area 13, Plot No.100, City Centre, Lilongwe 3, MALAWI

連絡先 : 国番号 : 265

市外局番 : 1

電話 : (265-1)771644

FAX : (265-1)771125

時間外 : 電話 : 該当情報なし。

URL : <http://www.jica.go.jp/malawi/index.html>

E-mail : jjicamw@jica.go.jp

勤務時間 : 8:00~17:00(休憩時間 : 12:00~14:00)

休日 : 下記祝日と土曜日、日曜日

1月 2日	New Year's Day
1月 3日	New Year Holiday
1月16日	John Chilembwe Day
3月 3日	Martyrs' Day
4月14日	Good Friday
4月17日	Easter Monday
5月 1日	Labour Day
6月14日	Freedom Day
7月 6日	Republic Day
10月 9日	Mothers' day
12月25日	Christmas Day
12月26日	Boxing Day
12月29日	Year End Holiday

(2006年)

事務所周辺地図



事務所までの交通 :

【空港から】

空港ではタクシーが数台客待ちしている。車の整備状況はあまりよくないが、利用に問題はない。必ず乗る前に値段を交渉して決めること。タクシー代は、リロングウェ市内にある主要ホテルまで1500~2000マラウイ・クワチャ(2004年12月現在)。空港から事務所まで通常30分程度かかる。

JICA調査団などは公用車またはレンタカーで移動することになる。

【空港以外から】

該当情報なし。

- (2) 日本との時差、
サマータイム
- 日本との時差 : -4時間30分
サマータイム : あり
- (3) 祝日、官公庁
の休日
- | | | |
|------|--------|--------------------|
| 祝日 : | 1月 2日 | New Year's Day |
| | 1月16日 | John Chilembwe Day |
| | 3月 3日 | Martyrs' Day |
| | 4月14日 | Good Friday |
| | 4月17日 | Easter Monday |
| | 5月 1日 | Labour Day |
| | 6月14日 | Freedom Day |
| | 7月 6日 | Republic Day |
| | 10月 9日 | Mothers' day |
| | 12月25日 | Christmas Day |
| | 12月26日 | Boxing Day |
- (2006年)
- 官公庁の休日 : 上記祝日と土曜日、日曜日。
- (4) ビジネスアワー
- 官庁 : 8:00~17:00(土日休み)
銀行 : 9:00~13:00(土日休み)
商店 : 9:00~17:00(日曜日はほとんどの店が休業)
- (5) 言語
- 業務 : 英語が十分に通用する。
ホテル、買い物、食事 : 英語が通用する。市場、一般商店などではチェワ語など現地の言葉が使われることもある。
- (6) 通貨
- 通貨 : マラウイ・クワチャ(MWK、以下本文中ではクワチャで表記)
1クワチャ=100タンバラ
為替レート : 1米ドル=106クワチャ(2004年10月末現在)
- (7) 関係機関
- 【在外日本関係機関】
- 在ザンビア日本大使館

住所 : No. 5218, Haile Selassie Avenue, Lusaka, Zambia
電話 : +260-1-251555 / FAX : +260-1-253488
URL : <http://www.zm.emb-japan.go.jp/>
マラウイには日本大使館がないため、在ザンビア日本大使館が兼轄する。
 - マラウイの関係官公庁
 - ・財務省 (Ministry of Finance)

住所 : Capital City, Lilongwe 3
電話 : 01-789355
E-mail : finance@malawi.gov.mw

・外務省 (Ministry of Foreign Affairs)

住所 : Capital City, Lilongwe 3

電話 : 01-788020

E-mail : foreign@malawi.gov.mw

(8) 有用サイト

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html> (外務省「各国・地域情勢」)

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/index.html> (外務省「渡航関連情報」)

Part 2 生活情報

※「生活情報」は特に記載のない限りJICA事務所があるリロングウェの情報を中心に掲載しています。

1. ホテル、住宅



1-1 ホテル

Yellow Page

主なホテルは次のとおりである(詳細はイエローページを参照)。料金にはサービス料5%、税金17.5%が加算される。

< Lilongwe (リロングウェ) >

- ・Capital Hotel (キャピタル・ホテル)
- ・Lilongwe Hotel (リロングウェ・ホテル)
- ・Korea Garden Lodge (コーリアン・ガーデン・ロッジ)
- ・Cresta Hotel (クレスト・ホテル)
- ・Lingadzi Inn (リングジ・イン)
- ・Riverside Hotel (リバーサイド・ホテル)

< Blantyre (ブランタイア) >

- ・Mount Soche Hotel (マウント・ソチェ・ホテル)
- ・Ryall's Hotel (ライアルズ・ホテル)

< Limbe (リンベ) >

- ・Shire Highlands Hotel (シレ・ハイランズ・ホテル)

< Zomba (ゾンバ) >

- ・Ku Chawe Inn (ク・チャウエ・イン)

< Mangochi (マンゴチ) >

- ・Nkopola Lodge (ンコポラ・ロッジ)
- ・Club Makokola (クラブ・マココラ)

< Mzuzu (ムズズ) >

- ・Mzuzu Hotel (ムズズ・ホテル)

1-2 住宅事情

外国人に適した住居はリロングウェ、ブランタイア、ゾンバの3大都市すべてで不足している。そのため家主が主導権を握り手市場である上に、通貨クワチャの急速な下落で家賃は高騰しており、住居探しは苦勞が多い。



住宅

家賃は、3ベッドルーム、家具なしの一戸建て庭付きで2000米ドル前後が一般的である。マラウイの治安は悪化しているので、防犯対策を施した住居を選択した上でさらにセキュリティ・アラーム、Burglar Bar (バーグラ・バー、鉄格子)などの防犯設備を整える必要がある。

1-3 住宅の探し方

新聞広告、知人の紹介、スーパーマーケットなどにある張り紙広告、口コミによって探すのが一般的である。不動産会社もあるが、満足のいくサービスはあまり期待できない。

1-4 住宅選定上の留意点

電気・水道・電話の便の良し悪し、バーグラブ・バーの有無、フェンスの有無、周辺の環境、一時帰国など長期不在時の安全性(過去の空き巣・強盗被害歴など)、使用人の部屋(数)、家具付きの場合は家具の状態などに留意すること。

また、修理・退去時のもめごとを避けるため、家主の人柄を関係者に確認することが重要である。

1-5 住宅の契約

通常は1~2年ごとの契約で、1年分の家賃を前払いする。時には2年分の前払いを求められることもある。家具付きの場合は、家具の賃貸料も家賃に含まれる。家の状態を念入りにチェックし、必要な場合は入居前に家主に補修してもらうこと。入居したあとでは、なかなか補修に応じてもらえないことがある。

1-6 ガス、水道などの手続きと管理

電話、電気、水道を使い始める時、前の借家人から契約者名を変更する必要がある場合は下記に連絡して手続きする。また、その際、それまでの支払いが滞っている場合は契約者変更ができず、最終的には電気、水道が止められることもあるので、入居前に家主に状態を確認する必要がある。家主によっては契約者を家主にして支払いを代行してくれる場合もある。

 Yellow Page

<電話>

・Malawi Telecommunications Limited(マラウイ電話局)

<水道>

・Lilongwe Water Board(リロングウェ水道局)

<電気>

・ESCOM(Electricity Supply Commission of Malawi、エスコム)

都市部の住居では電気温水器、電気こんろが設備されているのが一般的であり、ガス(プロパン)こんろはあまり普及していない。ただ、マラウイでは停電することがあるため、ガスこんろがあると便利である。雨季には電話回線の故障も多い。

居住地域によるが、降水量によっては断水の多い年もある。下水は地下浸透式で、だいたい2年に1回は処理をする必要がある。

1-7 家電

(1) 電圧

マラウイの家庭用電源は交流240V、50Hzである。日本仕様の電気製品を使用する場合、変圧装置は240V用にすることが望ましいが、非常に高価で重量のある変圧器を用意しなければならない。東京・秋葉原などに海外仕様品の取扱店があるので、これを利用するとよい。

(2) コンセント、モジュージャックの形

現地のプラグの形状は角型3ピンで、イギリスなどと同様である。電気製品を日本から持ち込む場合は、現地のコンセントに接続するために必要な個数のアダプターを、あわせて持参することを勧める。丸型2ピンのプラグも使用できる。

(3) 家電製品

「4-3 食器、調理器具」「5-1 家電製品」を参照。

1-8 家具保険

家具保険については一般的ではなく、取り扱い保険会社はマラウイでは見あたらない。

1-9 その他

住居の防犯対策として、警備会社と契約してセキュリティ・ガードを24時間(二交替)配置するとともに、警報システムを導入することを勧める。

首都リロングウェなどの標高が1000mを超える地域では、6～7月には気温が低くなり寒く感じる。一般的な外国人住居には暖炉の設備が整ってはいるが、簡単に使える暖房器具を用意しておくことと重宝する。電気ストーブはリロングウェ市内で販売されている。

2. 衣料、理容



2-1 衣料全般

(1) 一般事情

リロングウェは標高1100mの高地にあり、7月(乾季)の最高気温は摂氏21度、最低気温は摂氏5度くらいで、湿度が低いためかなり寒く感じる。Zomba Plateau(ゾンバ高原)、Nyika Plateau(ニイカ高原)はさらに気温が下がり、寒い。したがって、日本の真冬用のジャケット、セーターが最低1枚は必要になる。

一方、11月から翌年の2月ごろ(雨季)には気温が摂氏30度くらいになり、湿度も高くなるので、夏物の衣料が必要である。ただし夜間は冷え込むこともあるため、薄手のカーディガンなども持参するとよい。

低地のマラウイ湖周辺、南部のNgabu(ンガブ)近辺は一年を通じて暑く、摂氏37度を超えることもある。直射日光がかなり強いいため、長袖の服を着用したほうが疲労が少ない。

(2) 日本から持参したほうがよい衣料

フォーマルな服と履き物、ふだん着、長袖シャツ、防寒服、下着、靴下、ストッキング、運動着、水着などを持参すること。特に下着類は、現地製品はナイロン製が多く、ゴムなどの質がよくないので、すべて持参したほうがよい。

子供服(乳幼児用も含む)は、現地では古着か高価な輸入品しか販売していないので、持参したほうが無難である。おむつカバー、タオルなども、質や価格を考えると持参したほうがよい。

(3) 現地で調達したほうがよい衣料

オープンマーケットで売られているTシャツやワイシャツなどの古着は、ふだん着や作業着には十分な品質である。

南部アフリカで一般的なチテンジェ(綿生地、2×1m)で、いろいろなものを作って着るのもマラウイ生活の楽しみのひとつである。マラウイ国内で売られているチテンジェはタンザニアやザンビアからの輸入品が多く、国産のものに比べてデザインや質がよい。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

2-2 礼装

(1) パーティー

男性はスーツにネクタイ、女性はワンピースかスーツが一般的である。大統領、大臣などが主催する晩餐会であっても、ラウンジスーツ(ふつうのスーツ)でよい。

(2) 式典

1994年の政権交代以後、政府の式典でもふつうのスーツでよくなり、フォーマルなスーツやドレスを着る機会はほとんどない。

(3) 冠婚葬祭

男性はスーツにネクタイ、女性はワンピースかスーツが一般的である。

(4) その他の留意点

現地でフォーマルな衣服を調達するのは品質の点で問題があるので、必要な場合は持参することを勧める。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

リロングウェやブランタイアにはクリーニング店が数軒ある。また大きなホテルのクリーニングサービスも利用できる。ただし、色落ちして返ってくることもあるため、上等なものは出さないほうがよい。ドライクリーニングの技術は高いとはいえない。

一般的な固形洗剤、粉末洗剤、柔軟仕上げ剤などはどこでも市販されている。リロングウェなどの都市部では液体洗剤、ウール用洗剤、カーペット用洗剤、漂白剤、洗濯のり、幼児衣料用柔軟剤なども入手できる。

現地では仕上げの際、殺菌の意味からも必ず高温でアイロンをかける習慣があ

る。家政婦／夫に洗濯を依頼する場合は、ポリエステル製品など熱に弱い素材に関しては指導が必要である。

(2) 仕立て、修繕

テーラーがあり、パターンや見本があれば、東南部アフリカで一般的なチテンジェなどの布地でふだん着を作ることができる。

(3) 保管

マラウイでは雨季には湿度、気温ともに上昇する。必要に応じてタンス用の防虫剤、乾燥剤を持参するとよい。防虫剤は現地でも入手でき、においはきついが効き目はある。

2-4 美容院、理髪店

技術力は期待できないが、主要ホテル内や各地にある美容院が利用できる。値段はカットで500～1000クワチャである。パーマもかけられるが、ロットの種類や巻き方のバリエーションはない。また、パーマ液が強すぎるなど、不安材料は多い。

化粧品類は使い慣れたものを日本から持参したほうがよい。また、Peter Justensen(ピーター・ジャステンセン、「5-2 家具」参照)などの通信販売で欧米各社の化粧品を扱っており、利用することができる。ハンドクリーム、石鹸、シャンプー、リンス、ヘアスプレー、ヘアムースなどは現地で調達できる。

3. チップ



3-1 チップ事情

(1) 習慣の有無

習慣あり。

(2) 各種サービスに対するチップ

ホテルでは、ポーターやルームサービス時に20～50クワチャを渡す。レストランでは、基本的に料金にサービス料は含まれているが、テーブルへの給仕にはおつりの小銭(100クワチャ以下)を渡すと喜ばれる。

4. 食生活



4-1 外食

(1) 一般事情

レストランはそれほど多くはない。

(2) 飲食店

リロングェとブランタイアの代表的なレストランは以下のとおりである(詳細はイエローページを参照)。

【リロングェ】

<韓国料理>



- ・Korea Garden Restaurant
- ・Koreana Restaurant

- ・7 to 5 Restaurant

<中華料理>

- ・Golden Dragon Restaurant
- ・Macao Restaurant
- ・Great Wall
- ・Myanmar Restaurant

<西洋料理>

- ・Le Mimosa
- ・Tidye
- ・Buchanan
- ・Bistro
- ・The Patio
- ・Wendel
- ・Mammamia
- ・Modis
- ・The Hut

<ファーストフード>

- ・Nandos
- ・Burgerland
- ・Pizzaland
- ・Ali Baba

【ブランチア】

<中国料理>

- ・Hong-Kong

<西洋料理>

- ・Michiru Restaurant
- ・Gypsy's Restaurant
- ・21 Grill
- ・Hostaria
- ・Nook
- ・Greens House

4-2 食料

(1) 一般事情

比較的肥沃な土地に恵まれているため、農作物は豊富に収穫できるが、乾季の終わりごろには不足がちになる。

畜産は全国的に営まれており、牛肉、鶏肉などは容易に入手できる。豚肉は都会の一部の店でしか入手できない。

水産物は、マラウイ湖などでとれる淡水魚がほぼ通年出回っている(冷凍食品、

干物を含む)。また、首都リロングウェでは、輸入された冷凍海産物が入手できる。

食料品の衛生管理状態は良好とはいえないが、主要レストランやホテルではまず問題はない。ローカルレストランでも、よく火を通して料理であれば問題はない。

(2) 主な食品の出回り状況

<米>

現地の主食のひとつである。長粒米のため日本米より細長くパサパサしていて独特のおいがあるが、カレー、ピラフなどには適している。中国系の農家を作る Karonga (カロンガ) 産、Nkhotakota (コタコタ) 産の米は、日本米に似ていて味もよいが、やや入手困難である。

<パン>

食パンは安価で容易に入手できるが、ややパサパサしているものが多い。菓子パンもあるが種類は少ない。ケーキ類は日本人には少し甘すぎるようである。

<麺類>

スパゲティなどのパスタ類、インスタントヌードル、春雨、ビーフン、卵麺などが、都市部のスーパーマーケットなどにある。

<肉類>

牛肉や鶏肉は安価で入手しやすい。牛肉は日本のものより硬く、においもややきついが、圧力鍋を使うと軟らかくなってよい味が出る。鶏肉は丸ごと1羽で売られており、日本より飼育期間が長いので美味である。豚肉はジンバブエからの輸入ショップや都市部のスーパーマーケットで扱っている。時折、山羊の肉もマーケットで売られている。ハム、ソーセージも都市部のスーパーマーケットで入手できるが、種類・量ともに少ない。コンビーフは日本のものより脂質が多い。

<野菜>

ジャガイモは常時安価で入手できる。キャベツ、トマト、玉ネギも一年中あるが、その他は季節ものしか出回らない。トウモロコシ、キャッサバ、サツマイモ、タロイモ、インゲン豆、ショウガ、ニンニク、レタス、ニンジン、マッシュルーム、キュウリ、ナス、ピーマン、ブロッコリー、カリフラワー、パンプキンリース、落花生、グリーンピース、金時豆・大豆などの乾豆類、カボチャ、アボカド、オクラ、長ネギ、白菜などがあるが、いずれも大きくて種が多いか、逆に小さすぎる。小豆はほとんど見かけない。

マラウイの気候が野菜栽培に適しているらしく、たいいていの日本野菜は家庭でも栽培できる。種を日本から持参することを勧める。

<乳製品>

牛乳、バター、チーズ、ヨーグルト、生クリーム、コンデンスミルク、脱脂粉乳、フルミルクパウダー、乳児用の粉ミルク、ネスルの「ニド」が入手できる。

チーズはマラウイ国産品と輸入物があるが、品数は少ない。牛乳は500ミリリットル入りのパックがある。殺菌・保存・輸送のシステムが十分ではないため、沸かしてから用いるとよい。これとは別にロングライフミルクもあり、こちらは比較的安心

して飲める。

アイスクリームは、スーパーマーケットのものは輸入品が多く、おおむね衛生的である。

<鶏卵>

近郊の養鶏場産と、近隣国からの輸入品が出回っており、ほぼ常時入手可能である。

<果物>

季節によるが、レモン、オレンジ、ミカン的一种、グレープフルーツ、マンゴー、パイア、パイナップル、パッションフルーツ、イチゴ、スイカ、輸入品ではリンゴ(国産品もあり)、洋ナシ、キウイ、ブドウなどが手に入る。バナナはほぼ通年出回っている。

<魚類>

マラウイ湖などでとれるチャンボ(テラピアの一種)、カンパンゴ(ナマズの一種)などがほぼ通年手に入る。ジンバブエからの輸入品ショップではイワシ、タラ、マス、スモークサーモン、エビ、イカ、ロブスターなどを扱っている。これらはすべて輸入冷凍品である。

<調味料・食用油>

インド系の食品店には、ターメリック、コリアンダー、クローブなどのカレー用スパイスが揃っている。

スーパーマーケットには、塩、こしょう、スパイス類、オニオンソルト、コンソメスープの素、インスタントスープ、ワインビネガー、マスタード、ペッパーソース、サラダ油、オリーブ油などがある。

和食用の調味料は入手困難であるため(みそやしょうゆ、米酢などは中国製のものが入手可能)、必要に応じてみそ、しょうゆ、米酢、みりん、ソース各種、わさび、からし、粉末ゆず、だしの素、かつお節、スープの素などを持参するとよい。

<砂糖>

マラウイは砂糖生産国である。日本のものより粒子はやや粗いが、白砂糖、三温糖、黒砂糖が作られており、露店で販売されている。また、最近リロングウェにできた早朝から深夜まで営業しているスーパーマーケットでも販売されている。

ふつうの砂糖に比べて高価ではあるが、粉砂糖やグラニュー糖がスーパーマーケットなどで入手できる。

<酒類>

種類は限られているが、イギリス製、フランス製、南アフリカ製などのワイン、ウイスキー、ブランデーが常時入手可能である。ただし、非常に高価である。また、カールスバーグ社がマラウイで生産している333ミリリットル入りの瓶ビールがあり、非常に美味である。このほか、マラウイではジン(日本の焼酎に似ており、料理酒としても使用できる)、コーヒーリキュールなども生産されている。

<飲料>

300ミリリットル瓶入りの「コカ・コーラ」「ファンタ」「スプライト」「ジンジャーエール」

などの炭酸飲料が国内生産されている。缶入り炭酸飲料や紙パック入りのフルーツジュースは、高価ではあるが輸入品が数種類出回っている。

主要都市の上水道施設は整備されており、水道水を直接飲用してもさしつかえないといわれるが、日本人の多くは、煮沸したり日本から持参した浄水器を通して飲用している。マラウイ国産のミネラルウォーターも販売されている。

<菓子、その他>

あめ、ポテトチップス、コーン菓子、ビスケット、チョコレートなどがあるが、種類は少ない。好みに応じて日本から持参するとよい。マラウイには日本製の食品がないので、長期間保存できるものを必要に応じて持参するとよい。

(3)食料の入手

リロングウェでは、ジンバブエからの輸入品ショップなどで比較的多様な食材が手に入る。最近では、早朝から深夜まで営業しているスーパーマーケットもオープンし、便利になった。

デンマークのカタログ販売会社Peter Justensen（ピーター・ジャステンセン）（「5-2 家具」参照）を利用して、しょうゆ、インスタント食品、乾物類などを購入できる。ただし、かなり割高である。

また、以下に紹介するPTC（People's Trading Centre）とShoprite（南アフリカ共和国系）の大手2大スーパーマーケットなど（詳細はイエローページを参照）でたいていものは購入できる。

オープンマーケット（市場）では、さまざまな野菜、魚、豆類、米などを入手できる。価格表示はないが、スーパーマーケットなどに比べて割安であり、まとめ買いをする時に便利である。

ホールセールショップ（卸売店）では、生鮮品以外の食料品などを扱っている。ダース単位の販売になるが、スーパーマーケットなどの小売店と比べ、若干値段が安い。

 Yellow Page

<スーパーマーケット>

- ・Seven Eleven
- ・Shoprite (Lilongwe)
- ・Shoprite (Blantyre)
- ・PTC (Lilongwe)
- ・PTC (Blantyre)
- ・Metro (Lilongwe)
- ・Metro (Blantyre)
- ・Bisnowaty, Foodworths (Lilongwe)



Shoprite



PTC



Bisnowaty, Foodworths



Metro

4-3 食器、調理器具

(1) 食器、調理器具などの入手

種類は限られるが、現地でもひとつおりの物は揃う。

現地で入手できるものは次のとおりである。

<電化製品>

冷蔵庫、電気クッカー(こんろ)、電気ポット、電子レンジ、トースター、泡立て器、ジューサーミキサー、フードプロセッサーなど。

<調理器具>

ガスこんろ(雨季に停電が多いため重宝する)、ガスオーブン、鍋、フライパン、おたま、まな板、アルミホイル、ペーパーナプキン、コーヒーミル・ドリッパーなど。

<食器類>

皿、カップ、グラス、ナイフ、フォーク、スプーンなど(輸入品)。現地にはデッサ焼き(陶器)があり、窯元のDedza Pottery(デッサ・ポッターリー)に見本を持参すれば、たいていのものは作ってくれる。

冷蔵庫、電気クッカーなどの大型製品は、日本から送るより、現地で購入するかカタログ販売で購入するのが得策である。デンマークのカタログ販売会社Peter Justensen(ピーター・ジャステンセン)(「5-2 家具」参照)を使えば、たいていのものは揃えられる。申し込みから商品の引き取りまでは2~3週間で、支払いにはクレジットカードが使える。

(2) 日本から持参したほうがよい食器、調理器具

電気炊飯器、ホットプレート、オーブントースター、圧力鍋、中国鍋、すり鉢、菜ばし、しゃもじ、出刃包丁、土鍋、巻きす、おろし金、ケーキやクッキーの型、ゴムベラ、急須、椀、湯飲み、はし、はし置きなど。

ガスこんろがない住宅の場合は、停電時に備えて登山用の石油対応型のこんろを持参する人もいる。

電気製品のプラグの形状などについては「1-7(2)コンセント、モジュージャックの形」を参照のこと。

5. 生活用品の購入



5-1 家電製品

現地で購入できる家電製品は、冷蔵庫、掃除機、電気ストーブ、アイロン、ヘアドライヤー、ラジオカセット、テレビ受像器、ビデオデッキ、ステレオ機器などである。ただし、高価で種類も少ない。したがって、大型のものを除き、日本から持参するかカタログ販売で買うほうが安価である。

乾電池は各種売られており、リロングウェには日本製の乾電池を販売している店もある。一般にマラウイ産の電池は寿命が短く、南アフリカ製は高価である。頻繁に電池交換が必要な場合には、充電式電池と充電器のセットを用意したほうがよい。時計やカメラ用などの水銀電池は種類が限られるため、長期滞在の場合は必要量を持参したほうがよい。

家電製品は都市部のインド系の商店街にある店で購入するのが一般的である。現地で家電製品を購入できる店は次のとおり(詳細はイエローページを参照)。

 Yellow Page

- ・CES(Consumer Electronic Services)
- ・Lords Best Collection

5-2 家具

デンマークのカタログ通信販売会社Peter Justensen(ピーター・ジャステンセン、URL: <http://www.pj.dk>)を利用すれば、たいいていのは揃えることができる。ただし別途1kgあたり3米ドルほどの送料と引き取り手数料がかかる。申し込みから引き取りまでは2~3週間である。

支払いはインターナショナルカードであれば、ほぼすべてのクレジットカードで対応できる。

5-3 日用品、雑貨

トイレットペーパー、ティッシュペーパーは値段が非常に高いが、輸入品が入手できる。

文房具は、一般的なものが入手できるが、品質のよいものを必要とする場合は日本から持参することを勧める。

掃除用具やバスルーム用の小物についても、基本的なものは現地で手に入るが、品質が限られている上、輸入品なので非常に高価である。

トイレットペーパー、ティッシュペーパー、文房具、掃除用具、バスルーム用小物などは、Shopriteなどのスーパーマーケットで販売されている。

5-4 工具、素材

中国製、インド製の工具などは、Shopriteやオールドタウン地区のインド系の雑貨店で入手可能であるが、品数は非常に限られる。よいものは日本から持参するか通信販売などで購入することをお勧めする。

6. 金融機関



6-1 金融機関

(1) 銀行

JICA職員、専門家などが利用している銀行はNational Bank of Malawiで、Non Resident Account(マラウイ国非居住者口座)を開設できる。この口座は、利子はつかないが、外貨への換金がResident Accountに比べて容易である。同行はブランタイアに本店があり、リロングウェ、ブランタイアに各数店舗、そのほかの都市にも支店がある。ほかにはCommercial Bank of Malawi Ltd.がある。各手当てなどは、たとえば東京三菱銀行信託会社ニューヨーク支店に振り込み、そこから必要額をマラウイに取り寄せるとよい。

日本人がよく利用する銀行は次のとおりである(詳細はイエローページを参照)。

Yellow Page

- ・National Bank of Malawi(本店)
- ・National Bank of Malawi(リロングウェ支店)
- ・Commercial Bank of Malawi(本店)
- ・Commercial Bank of Malawi(リロングウェ、キャピタルシティ支店)

(2) 口座の開設と閉鎖

銀行の口座担当窓口で必要書類に記入し、口座開設となる。口座開設時に小切手利用を希望した場合、約1週間後に小切手帳ができるので、銀行に事前に電話などで連絡した上で直接銀行に出向く必要がある。ATMカードの発行は、約1カ月かかり、こちらも申請者が直接銀行に出向く必要があるため、約1カ月後に銀行に連絡して確認する。

口座を閉鎖するには、小切手帳を利用している場合は、残りの小切手を持って銀行に行き、担当窓口で必要書類に記入する。

(3) 小切手

銀行口座開設時に小切手が利用できる口座を申請する。この口座は利子がつかず、手数料は同口座から自動的に引き落とされる。小切手は、公共料金の支払いや主要ホテル、クレジットカードが利用できるレストラン、主要スーパーマーケットなどで利用可能である。多額の現金を持ち歩くよりも小切手を利用するほうが安全で便利であり、欧米人やマラウイ人の間でも利用頻度が高い。

(4) 換金方法

主要都市には、銀行、マネービューロー(両替所)があり、現金で米ドルからクワチャへの換金は容易にできるが、逆は米ドルキャッシュ不足などを理由に断られることがある。米ドルのトラベラーズチェックを換金する場合は、キャッシュに比べてクワチャへの換金率が悪い。また、直接米ドルキャッシュへの換金はできず、一度クワチャに換金したあと、米ドルを買わなければならないため、手数料などが差し引かれる。その際、パスポートが必要となる。

リロングウェ市内にあるマネービューローは、銀行レートより交換率は若干よい。なお、マネービューローは、土曜日の午後と日曜日は休み

6-2 クレジットカード

主要数都市にある外資系ホテルでは、VISA、MasterCard、American Express、Dinersのカードが使えるが、それ以外では利用できない。

7. 交通事情



7-1 交通手段

(1) 一般事情

<バス>

リロングウェ市内では、乗り合いバスやミニバス(16~23人乗れる)が早朝から夕方まで運行しており、出勤時や帰宅時には本数が増える。

料金は10kmまで40クワチャである。市内バスはバス停に止まるが、ミニバス

はどこでも乗り降りができる。行き先は車両の前面に表示されている。ただし、バス、ミニバスともに常に込んでおり、車内ではスリの被害もあるため、利用する際には注意を要する。

リロングウェ～ブランタイア間(約350km)のバスには、普通、急行、直行の3種類がある。普通バスの料金は550クワチャで、人のいるバス停にはすべて停車するため、始点から終点まで6～8時間を要する。急行バスは料金が800クワチャで、4つの町だけに停車し、4～5時間で走る。

直行のコーチラインは約3時間半で終点到着する。一日3回、7:30、11:30、16:30に、リロングウェとブランタイアから同時に出発する。トイレや冷房設備が整っており、飲み物やスナック類もある。コーチラインのチケットは前売りで、料金は2000クワチャ(約2000円)と高いが、利用客は多い。

そのほか、多くの地方都市にもバスが頻繁に走っており、所要時間はかかるが交通手段として問題はない。

<タクシー>

空港、ホテル、バスの発着場などで利用できる。赤地に白ナンバーで、後部ガラスなどに「TAXI」と表示してある。メーターのない車が多いため必ず乗車前に料金を交渉すること。JICA事務所のあるCity CentreからOld Townまでは500～800クワチャ(利用時間帯によって料金が異なる)、空港から市内までは1500～2000クワチャである(2004年12月現在)。

<鉄道>

貨物輸送が主体である。

<航空>

リロングウェから北のMzuzu(ムズズ)に週2便、南のブランタイアには毎日数便運航している。しかし、料金が高く空港からの交通の便が悪いため、あまり利用されていない。

<船舶>

南北に長いマラウイ湖の西岸に沿って、北部のKaporo(カポロ)、Chilumba(チルンバ)から南部のMonkey Bay(モンキー・ベイ)までを、2隻の客船が往復している。所要時間は長い、1等船室、バー、レストランが完備されており、のんびりとマラウイ湖を旅することができる。

船室の予約は次のところで受け付けている(詳細はイエローページを参照)。

- ・Malawi Lake Service(マラウイ湖船舶会社)
- ・Soche Tours And Travel(ソチェ旅行会社)

(2) 空港から市内への移動

バスは便数が限られるため、タクシーなどを利用することになる。タクシーにはメーターがないので、必ず乗車する前に料金を交渉すること。市内まで1500～2000クワチャが相場である(2004年12月現在)。

(3) 自家用車を利用する場合

国内の主要道路は一応舗装されているが、よく穴があいているので注意を要す

る。道路標識はほぼ日本と同じで問題はない。信号機はわずかしかないが、信号を無視するドライバーがいるので青信号でも気をつけること。

左折、右折の際には手信号もしくはウインカーを使用することになっているが、多くの車は何の合図もなく曲がっている。また、ウインカーを出していても曲がらなかったり、あるいは逆方向に曲がったりすることがあるので注意を要する。手信号は日本と少し異なり、左へ曲がる場合は右手を後ろから前へ回す。前の車が右のウインカーを点灯させた場合は、右折する場合と、前方より対向車が来ることを後方の車に教える場合がある。追い越しの際には注意すること。

歩道まで舗装されている道路はほとんどないため、自転車も車道を走行している。特に下り坂ではスピードが出ており、ブレーキが故障している自転車もあるため、追い越しをする際は注意すること。

市内には自動車学校の車がよく走っており、まったくの初心者でも最初から路上で教習を受けている。自動車学校の車とL(Learn)標示の車、単車には要注意である。L標示の車は教官あるいは運転経験者が同乗しているが、補助ブレーキはついていない。

一般に、主要な国道沿いの大きな町にはガソリンスタンドがある。ブランタイアとリロングウェには24時間の営業所があるが、その他の都市では6:00~18:00の営業である。料金は1リットル102.70クワチャ。時には品切れの場合もあるので、出発時には必ず満タンにしておき、スタンドを見つけたら補充するように心がけるとよい。なお、マラウイのガソリンには約15%のアルコールが含まれている。

(4) レンタカーなどを利用する場合

ドライバー付きで借りることもできるが、運転技術が未熟なことがあるので注意すること。よく利用されるレンタカー会社は次のとおり。

- ・Apex Rent a Car
- ・J&K Car Hire
- ・Siku Car Hire
- ・Planet Car Hire

(5) 地図

レンタカー会社がくれる値段表の裏に、各町までの距離と主要道路が記されている。

中学校で使用している地図帳は、内容は古いがコンパクトで使いやすく、町の書店で購入できる。また、政府が大形の全国地図や地域地図を出版しており、容易に購入できる。

7-2 交通事故、盗難

(1) 対処方法

事故を起こした場合は、まず第三者の証人を確保し警察に出向く必要がある。自分のほうに非がある場合でも決して先に謝らないこと。警察で適切な指示を受けることが必要である。。

・警察 / 電話 : 997

・消防 / 電話 : 999

(2) 救急病院

リロングウェとブランタイアを中心に、政府系やミッション系の病院(医師が勤務しているところ)があり、急患にも対応している。

・救急車 / 電話 : 998

(3) 車両の盗難、車上荒らし

盗難に対する保険金の支払いを受けるには、セダンと四輪駆動車については盗難防止装置(警報だけではなく、移動不可能になるもの)の装着が条件である。また、警察で事情聴取した際に作成するポリスレポートの入手と保険会社への連絡が必要となる。

車上荒らしは頻繁にあるので車内に貴重品などを放置せず、車から離れる際は必ず施錠すること。車両の盗難も散発しているので、地域の治安情報に気をつけ、車両通行量が少ない道路を避けるなどの対策が必要である。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

車両は左側通行である。シートベルト、単車のヘルメット着帽、単車の昼間のライト点灯が義務づけられている。

Roundabout(ロータリー)のある交差点では、ロータリー内の車を優先する。

(2) 罰金、罰則

罰金は、3000クワチャ。交通法規を守らなかった場合、その場で罰金を支払うか、近くに警察がある場合はそこで罰金を支払う。罰金が支払えない場合は、免許証を取り上げられることもあり、場合によっては警察に車を預けなければならないこともある。日本のような点数制度はなく、速度制限や飲酒運転の取り締まりなども少ない。

7-4 車の修理

(1) 部品

オイルフィルター、ガソリンフィルターなどの消耗品は比較的容易に手に入るが、大きな部品や特殊な部品は注文してから2カ月以上を要することが多い。

(2) 修理工場

一般的に技術水準は高いとはいえない。修理の際は、メーカーの工場(トヨタ車ならトヨタの整備工場)に出すのが無難である。

修理中に良好な部品を中古部品に取り替えられることがあるので、工場に預ける前にエンジニアと一緒に内部を確認しておくとい。

8. 通信



8-1 電話

(1) 一般事情

都市部では普及しており、ほとんどの会社、商店、官庁に電話連絡ができる。リロングウェからブランタイアへの接続は比較的よいが、それ以外の地域へは(交換機と回線が満杯に近い状態のため)何回もダイヤルしないと通じない。なお、オペレーター(0番)に接続を依頼することもできる。

リロングウェのArea 3やArea 9などのOld Townでは、交換機の需要が供給を上回っているため電話の新設は難しい。また、都市部では新設に通常2週間から6か月を要し、地域によっては新設まで半年以上かかる場合がある。したがって、住宅を選定する際は即時使用できる電話が付いていることが必要条件となる。日本仕様の電話機も使用できるが、モジュージャックの仕様が違うため、接続には若干の作業が必要である。なお、リロングウェの一部ではプッシュ回線が使用できる。

主要都市では郵便局などに公衆電話があるが、故障していることが多い。緊急の場合はホテルのフロントの電話を利用するとよい。ただし、料金は通常の2倍以上かかる。リロングウェ、ブランタイアの大きなホテルにはビジネスビューローがあり、国際電話、ファクシミリ、コピーサービスが利用できる。

(2) 国内電話

主要都市へはダイヤル直通である。一部の地域では交換手扱いの予約制である。

2004年12月現在の通話料金は、市内は1分間(ビジネスタイム)1.5クワチャ、休日や夜間の通話は90秒3.20クワチャである。市外通話は、18秒3.20クワチャ、休日や夜間は30秒3.20クワチャとなる。

(3) 国際電話

昼夜を問わず、ほとんどの国へダイヤル直通で通話ができ、マラウイ～日本間の通信状態は良好である。

マラウイから日本へ電話をかけるには、ダイヤル直通の場合は「00-81」のあとに市外局番から頭の0をとってダイヤルする(たとえば日本の東京の03-5352-5150にかけの場合、「00-81-3-5352-5150」とダイヤルする)。オペレーター通話(リロングウェ、ブランタイアなど多くの地域では102)を利用することもできるが、指名者通話(パーソナルコール)、料金先方払い(コレクトコール)のサービスはない。

日本への通話料金は、ダイヤル通話は平日1分間2.0米ドルで、平日深夜は1.20米ドル、土・日・祭日は1.60米ドル、オペレーター通話は1分間2.0米ドルで時間割引はない。日本との時差は7時間で、日本の夕方から夜間がマラウイの昼間にあたる。

(4) 携帯電話

携帯電話はマラウイ全土で普及している。しかし、地方では通話不可の地域もある。通話料は国内で1分0.34米ドル、国際電話の場合は、1分1.41米ドルである。

8-2 電信

(1) ファクシミリ

ファクシミリ専用回線を新設するのは難しいが、すでにある電話回線に併設するのは容易である。リロングウェ、ブランタイアの主要ホテルにはファクシミリが設置されており、利用できる。

(2) テレックス

最近ではファクシミリが主流となっており、ホテルなどでもテレックスは設置されていない。

(3) 電報

各地の郵便局から国内および国際電報が打電できる。

(4) インターネット

いくつかのプロバイダーが国内に設立されており、増加傾向にある。

以下は2004年12月現在の国内の主なプロバイダーである(詳細はイエローページを参照)。このほかに南アフリカ共和国のプロバイダーと直接契約することもできるが、その場合、同国までの電話料金がかかる。

 Yellow Page

- ・Malawi Net
- ・Globe Net
- ・Epsilon and Omega
- ・University of Malawi (Chancellor College)

8-3 郵便

(1) 一般事情

個別配達制度はない。郵便物(小包、書留などを除く)は私書箱を利用して受け取る。自分専用の私書箱を開設するか、配属先の私書箱を利用することになる。

街中には日本のような郵便ポストはなく、郵便局の投函口へ直接投函しなければならない。各種郵便料金は以下のとおりである。

<国内郵便>

封書(～2kg)は25～645クワチャ(2kg以上は1kgごとに325クワチャ追加)、はがきは1クワチャ、荷物(～3kg)は300～450クワチャで、3kg以上は1kgごとに30クワチャ追加される。

<国際郵便(Air Mailで日本へ郵送する場合)>

封書(10gごと)は22クワチャ、はがきは22クワチャ、荷物(～3kg)は2635～7588クワチャで、3kg以上は1kgごとに550クワチャ追加される。

(2) 課税

郵便小包の引き取りの際には、手数料として250クワチャを郵便局に支払う。また、郵便小包の大きさや内容物の価格に応じて課税される。この際の課税率については、公式な一般表示はないが、内容物が家電製品やDVD、CDなどの場合に高くなる傾向にある。

(3) 国際宅配サービス

主要数都市ではDHLのサービスが受けられ、日本へは通常荷物は5日、書類は4日で届く。

料金は通常荷物は5000クワチャ(500gまで)から2万7555クワチャ(10kgまで)、書類は3040クワチャ(500gまで)から2万840クワチャ(10kgまで)である。

9. コンピューター



9-1 ハード、ソフト

(1) 調達の方法

主要都市では、年々コンピューター関連の代理店の開業が増えている。在庫を持った代理店もあり、機種にこだわらなければパソコン・周辺機器の即日調達も可能である。ただし、注文後に取り寄せる(輸入する)場合は日数を要する。これらは英語環境機種なので、日本語環境で使用したい場合は、日本語OSに入れ替える必要がある。

日本のコンピューターを持ち込むことも可能。ただし、マラウイの電圧は220Vで電圧なども一定でないため、サージ保護機能のある変圧器が必要。また、プラグも3ピン式で日本とは異なるので、アダプターを用意する必要がある。

なお、マラウイでのマッキントッシュの普及率は低く、取り扱う会社も少ない。

(2) 使用の際の注意

コンセントの形状、電圧に関しては「1-7 家電」を参照。

海賊版ソフトが多く出回っており、インターネットを通じたウイルス感染率も高いので、対策が必要である。

(3) 修理

代理店により技術レベルは異なるが、ある程度の修理までは対応が可能となった。

マラウイの主なコンピューター修理会社は次のとおり(詳細はイエローページを参照)。



- ・Computer Connections
- ・Computer Solutions
- ・Burco Electronics
- ・Computer Support Services

10. 職場環境、勤務条件



10-1 職場環境、勤務条件

(1) 就業時間

官公庁では月～金の週5日で7:30～17:00勤務が一般的。民間企業では8:00～17:00が一般的で、月～金の週5日勤務に加えて土曜も半日勤務の場合がある。国際機関や援助機関などでは8:00～17:00が一般的で、金曜日は8:00～12:30で半日勤務のところが多い。

昼休みは、官公庁・民間企業では12:00～13:00の1時間、もしくは12:30から1時間、国際機関・援助機関などでは12:00～14:00の2時間が一般的。

残業などはほとんど行われていない。

(2) 有給休暇

通常、年間20日が賦与される。

(3) 執務室

官公庁では個室を割り当てられるのが一般的。民間企業では大部屋勤務もある。

(4) 通勤事情

ミニバス、乗り合いなどで1、2時間程度かけて通勤するのが一般的。高級スタッフ、外国人は自家用車で通勤する。

11. 出入国手続き



11-1 入国

(1) 空港施設概要

LIA(Lilongwe International Airport: リロングウェ国際空港)は、国際線と国内線の発着に利用されており、2階建ての空港ビルで1階が発着ロビーとなっている。飛行機を降りてから空港ビルまではバスで移動する。空港内で迷う心配はない。

(2) 入国手続き書類

パスポートと機内で配られる入国カードが必要である。日本のパスポートがあれば3カ月以内の滞在に限りビザは不要。

(3) 入国審査

現地到着後、必要事項を記入しておいた入国カードを、パスポートとともに入国審査官に提出する。

(4) 税関検査

入国審査のあと、預けた荷物を受け取り、税関検査を受ける。公用旅券保持者については、比較的軽微な審査(口頭聴取による内容確認)だけで通過することができ、ほとんど問題はない。

(5) 空港内での留意点

盗難には十分に注意すること。

(6) 空港からの主な交通手段

バスは便数が限られるため、タクシーなどを利用する。タクシーにはメーターがないので、必ず乗車する前に値段を交渉すること。市内まで1500～2000クワチャが相場(2004年12月現在)である。

(7) その他の留意点

外貨交換は空港ビル内の待ち合いロビーにある銀行ででき、比較的レートもよい。ホテルでも交換できるが、レートは若干悪い。リロングウェ市内には銀行のほかにマネービューロー(両替所)がある。

長期滞在者は現地の銀行に口座を開設すれば外貨(米ドル、英ポンドなど)小切手を銀行に預け入れ、現地通貨を引き出すこともできる(「6-1 金融機関」参照)。

11-2 出国

(1) 出国時の概要

LIA(リロングウェ国際空港)待ち合いロビーの航空会社カウンターに、パスポート、航空券を提出し、荷物を預けると同時に出国カードをもらい、必要事項を記入する。パスポート、航空券(半券)と搭乗券を受け取って空港利用税支払い窓口へ行き、搭乗券と空港利用税を提出し、搭乗券に空港利用税領収シールを貼って返してもらう。

出国審査官にパスポート、搭乗券、出国カードを提出し、パスポートに出国スタンプを押してもらい、搭乗券とともに返してもらう。その後、出国者待ち合いロビーで待つ。待ち合いロビーには小規模な免税店がある。手荷物検査を受けたあとは、出発ロビーで搭乗アナウンスを待つ。

(2) リコンファーム

英国航空以外の航空会社を利用する場合には、搭乗時刻の72時間前に行う必要がある。

(3) チェックイン

国際線の場合、フライトの1時間半から2時間前を目安にチェックインする。ただし、早朝便の場合は、チェックインカウンターが開くのが7:00ごろであることに注意する。国内便の場合は1時間前を目安にチェックインする。リロングウェ市内から空港までは約30分かかる。

(4) 空港利用税

チェックイン終了後、空港利用税支払い窓口(1階)で航空券と空港利用税30米ドルを提出し、航空券の表紙に領収シールを張って返してもらう。現地通貨での支払いはできないが、隣接する両替所で米ドルへの両替が可能(2004年12月現在)。

(5) その他の留意点

搭乗待合室で搭乗を待つ間、チェックインした荷物が軒下に並べられるので、自分の荷物を確認し、係官に告げる必要がある(航空会社による)。

11-3 帰国手続き

(1) 帰国時に必要な事務手続き

現地で取得した運転免許証は日本での書き替えが可能であり、帰国後免許証を申請する時に必要となるので持ち帰ること。

(2) 車の処分

友人、知人などへの売却、新聞広告による売却、ディーラーに委託する方法などがある。いずれも短期間での売却は難しい。

(3) 家財道具の処分

家財については、友人や後任者への売却、譲渡が多い。日本に送る際はアナカン(航空別送便)を利用するとよい。

(4) 住宅の明け渡し

住宅を明け渡す際、室内の修理は借り手負担が一般的である。修理が済んだら家主に確認してもらい、明け渡す。

(5) 外貨持ち出し規制

現在は、外貨の持ち出しに制限はない。現地通貨は3000クワチャまで持ち出しが認められる(空港でチェックされる場合もある)。

12. 治安、 緊急時の心得



※生命・財産に直結することでもあり、治安・安全情報に関しては、各自の責任において最新かつ正確な情報を入手してください。

12-1 暴動、クーデターなど

(1) 一般事情

1999年10月には食糧・燃料の値上げに対し小規模なデモ、投石騒動があったが、2000年は主食であるメイズが豊作で食糧価格が安定したため、大きな騒ぎは起きていない。好転しない経済状況、相次ぐ不正疑惑などのため、政治に対する一般庶民の不満は少なからずあるが、現在のところ暴動などが起こる可能性は低いと考えられる。

しかし、与野党間あるいは政党内での勢力争いや対立は存在し、特に選挙期間中は暴力行為が伴うことも珍しくないため、政治集会などには一切近づかないことが賢明である。

(2) 対処法

現地在留日本人のほとんどはJICA関係者である。緊急の際、JICA関係者はJICAマラウイ事務所の指示で行動する。在マラウイ日本大使館はない。

万一に備え、いつでも家族全員が近隣諸国へ避難できる程度の現金(米ドル)、非常用食料と飲料水を用意しておくべきである。

12-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

治安は近隣諸国のなかでは比較的安定しているが、外国人を狙った強盗や武装強盗は年々増加している。また、長期に家を空けた際に空き巣の被害に遭う例がある。食糧が不足する10～12月ごろが特に盗難の多い時期である。

リロングウェ、ブランチアなどの高級ホテル内でも部屋での盗難事件が、まれではあるが報告されているので、貴重品はセーフティボックスに入れるなど、十分に注意する必要がある。

(2) 住宅の防犯対策

a) 一般的に使用されているドアの鍵はパターンが限られており、いくつかを用いれば開けることができるといわれている。実際、盗難事件は合鍵を使ったケースが多い。そのため、鍵穴をふさぐドイツ製のキーホールロック(現地

で入手可)の使用、あるいは合い鍵の作りにくいシリンダー錠(現地でも一部入手可)の取り付け、または簡単な防犯用補助ロック(現地入手不可)を用いるのが望ましい。

- b) 警備員の配置、バーグラブ・バー(鉄格子)、フェンス、内鍵、かんぬきなどを施し、知らない人を敷地内に入れない。加えて都市部では、民間警備会社による緊急アラーム通報システムへ加入することが望ましい。
- c) 非常時に警察(電話 :997、ブランタイア、リロングウェ、ムズズ、ゾンバのみ)に連絡しても、警察車両が不足しているため、すぐに駆けつけてくれるとは限らない。大型犬を数頭飼うなど、ある程度の自己防衛を平素から心がけておく必要がある。
- d) 身元の不確かな人は雇用しない。また、使用人に旅行計画や取り引きの詳細などを知らせないこと。ハウスポイ、警備員などが強盗の手引きをする例がある。
- e) 犯人はセールスマン、道路工夫、公共労働者などを装い、犯行前に下調べをしていることが多い。不審な場合には警察に通報すること。

(3) 市中での防犯対策

- a) 徒歩での夜間外出は避け、車で移動すること。特に日暮れのバスデポ、マーケット周辺などは危険である。昼間でも人気のないところで襲われることがあり、周囲には常に注意を配ること。ナイフなど凶器を用いた襲撃もあり、その場合はむやみに抵抗はしない。
- b) 都市部ではカージャックが相次いでいるため、車を運転する際には自宅の門前などで背後や周囲に十分に注意する。また、自宅の警備員に対し、車が到着したら直ちに門を開けるように指導する。自宅周辺が不審な場合は自宅に入らず、警察、主要ホテル、24時間営業のガソリンスタンドなどに直行する。また、不幸にして賊に銃を突きつけられた時は直ちに車を止め、無抵抗で車を引き渡す。命のほうが車より重要である。
- c) 不要なものを持ち歩いて両手がふさがった状況を作らない。バス発着所やマーケット周辺では路上強盗、ひったくり、スリの被害が外国人、マラウイ人を問わず頻発している。業務上出かける場合でも極力荷物は持たず、スーツ、ネクタイなどのめだつ服装は避けるように心がける。また、夜間の徒歩での外出は避ける。
- d) 日ごろから身边を警戒し、日常と異なる事柄がないかどうか注意する習慣をつけておくことが肝要である。

(4) 注意すべき場所、危険地域

リロングウェ市内での状況は、以下のとおり。

オールドタウンのバス停付近は、人が多く、タクシーや露店商などの客引きなどで混雑しているため、スリや置き引きに注意すること。リロングウェ中央病院からShopriteへ向かう道路は昼間でも人通りが少ないので徒歩での移動はせず、必ずタクシーやミニバスなどの車で移動する。

ネイチャーサンクチュアリと呼ばれる自然保護林が広がる地域のケニヤッタ道路では、車両強盗などの事件が発生しているため、特に夜間は通行しないこと。

(5) 被害時の心得

<交通事故等に遭遇した場合>

- a) けが人がいる場合は最寄りの医療施設へ速やかに搬送する。しかし、興奮した群集がいる場合は非常に危険なので、いったん現場を離れ最寄りの警察署に立ち寄り、警察官の指示に従って現場に戻るようにする。
- b) 二次災害の防止のため三角表示板等を事故車の前後50mくらいのところに置く。また、マラウイでは三角表示板の代わりに木の枝などを置く習慣がある。路上にこれらを発見したら前方に故障車が止まっているので注意する(三角表示板は法令で車載が定められている)。
- c) 最寄りの警察署へ届け出をする。警察へ届け出をした際には、必ず警察からPOLICE REPORTを発行してもらう(大使館への事故報告、保険求償の際に必要となる)。
- d) けが人の救出は人道上的観点からも第一に実施すべきことであるが、上記 a) に注意するとともに、不用意に負傷者の血液に触れないように注意する。
- e) 事故に巻き込まれた場合、後日不要な嫌疑をかけられることを避けるためにも目撃者が重要となるので、名前、住所、連絡先などを記録に残しておく。

<犯罪に遭遇した場合>

- a) 抵抗しない。絶対に抵抗せず、賊の指示に従う。体は急に動かさず、不要な緊張を賊に与えないこと。
- b) 後追いしない。
- c) 速やかに警察に届け出る。
- d) 日ごろから所持品には必ず名前を記し、記録をとっておく。

12-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況

天災はほとんど起きていない。火の不始末による火災は時々見られる。雨季には南部の低地部で水害が起こることもある。

(2) 防災対策

火災については、日本と同様に火の用心をする必要がある。

(3) 被災時の心得

まず、自分と家族の身の安全を確保する。それから、警察、消防署へ通報する。いずれにしても、警察、消防署や他人をあてにせず、自分自身で身を守る心構えが肝要である。

12-4 緊急連絡先電話番号

- ・在ザンビア日本大使館 :+260-1-251555
- ・警察 :997
- ・救急 :998
- ・消防 :999

13. 社交



13-1 風俗習慣

1993年11月までは、当時の政権が設定した「ドレスコード」により、男性の長髪や女性のズボン、ミニスカート着用は禁忌であったが、現在は自由である。

13-2 パーティーでの留意点

パーティーは、個人宅で開かれる場合が多い。招かれる際は、ワイン、チョコレート、花束などのほか、日本の小皿などを手みやげとして持っていくと喜ばれる。マラウイでは、たいていがインフォーマルなパーティーなので、服装は、男性はブレザー、女性はワンピースなどの気軽なものでかまわないが、招待状にドレスコードの記載がない場合は、一応、事前に確認し、その場に適した服装を心がける。

ホテルで開催される改まったレセプションでも、男性はビジネススーツ、女性はワンピースなどで十分であるが、特に女性は着付けや髪の設定に自信があれば、和服を着用すると皆に喜ばれる。

13-3 来客時の留意点

招待客の宗教や習慣を事前に確認して食事のメニューを考える。たとえば客がイスラム教徒の場合、スープを出すにも豚を使うことはタブーである。また、西洋人にも肉・魚類を食べないベジタリアン(菜食主義者)が増えている。招待客が安心して食事できるように、料理を出す時は、材料をひとつひとつ説明するとよい。

13-4 訪問時の留意点

「13-2 パーティーでの留意点」参照。

13-5 禁止されている言動(タブー)

以前に比べて規制は緩やかになってきたが、空港の一部、大統領官邸、国境周辺など、撮影を禁じている場所がある。

民主化後、表現の自由は許されるようになったが、政治についての話は避けるのが賢明である。また、当然のことであるが、各宗教の批判などはすべきではない。

13-6 日本人会

日本人会はないが、リロングウェでは、日本人有志によるゴルフ大会、午後のお茶会などが開催されたり、国際婦人会のバザー、学校の国際デーなどのイベントに協力して参加したりする機会がある。

13-7 JICA帰国研修員同窓会

JICA主催の日本での研修コースに参加したマラウイ人で構成される会、JICA Ex-Participants Association of Malawi (JEPAM) の会合が年1回程度開かれている。

13-8 現地の人々との交流

マラウイの人々は、一般に対立を好まず、礼儀正しいという点で日本人と共通するので、つきあいやすいといえる。パーティーなどを開く際、自家用車や公用車を所有する一部の富裕層を招待する場合は問題ないが、車を持たない一般のマラウイ人を招く場合は、公共交通機関であるミニバスやタクシーが利用できる昼間の時間にすることが望ましい。

JICA専門家や青年海外協力隊員のなかには、各職場の同僚と、仕事帰りにボトルショップと呼ばれる居酒屋で親交を深める人もいる。

14. 教育



14-1 教育事情

(1) 一般事情

教育制度はイギリスに準じている。初等教育は8年間、中等教育は4年間で、さらに高等教育機関としてマラウイ大学などが存在する。政府はマラウイのすべての子供が教育を受けるよう促し、1994年からは初等教育を無料としたが、義務教育ではないため、就学率は初等教育で50%程度、中等教育では5%と非常に低い。公立学校の教育水準はあまり高くないため、日本人や高級官僚の子弟たちは私立学校で学んでいる。

(2) 日本人学校

日本人学校はない。

子弟の教育については、海外子女教育振興財団に相談するとよい。

<海外子女教育振興財団>

URL : <http://www.joes.or.jp/>

E-mail : service@joes.or.jp

受付時間 : 9:30~17:30(月~金、祝日・年末年始を除く)

・東京

住所 : 〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-4 愛宕東洋ビル6階

電話 : 03-4330-1349 / FAX: 03-4330-1355

・関西分室

住所：〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-3-1-200 大阪駅前第一ビル2階

電話：06-6344-4318 / FAX:06-6344-4328

(3) 現地校、外国人学校

現地校、外国人学校は次のとおりである(詳細はイエローページを参照)。



<現地校>

・Lilongwe Private School(リロングウェ・プライベート・スクール)

<外国人学校>

・Bishop Mackenzie School(ビショップ・マッケンジー・スクール)

・Phoenix School(フェニックス・スクール)

・St. Andrews(セント・アンドリュース)

・St. Andrews International Primary School

(4) 幼稚園

リロングウェには、前述のBishop Mackenzie Schoolにある幼稚園(4~5歳児対象)のほか、Tom & Jerry Play School(トム・アンド・ジェリー・プレイ・スクール、イギリス系。2~4歳児対象)などがあり、多くの外国籍の幼児が通園している。

14-2 教育関係施設

(1) 図書館など

図書の貸し出しサービスは、National Library(ナショナル・ライブラリー)が実施している。蔵書のほとんどは英語である。本を借りるには、会員になる必要があるが、マラウイ居住者であれば外国人を含めてだれでも、申込書に記入するだけで無料で会員になれる。ナショナル・ライブラリーの本部は首都リロングウェにあり、ほかにカロンガ、ムズズ、ゾンバ、ブランタイアなどに合計7つの支所がある。

そのほか、有料ではあるが、British Council(ブリティッシュ・カウンシル)でも図書とビデオの貸し出しサービスが実施されている。

15. 家庭の使用人**15-1 一般事情**

使用人は、信頼のおける人物を選ぶことが何より大切である。正式に雇用する前に、数カ月の試用期間を設ける場合が多い。

使用人としての仕事を、ほかでは得難いものとして認識してもらうために、給料や休暇、勤務時間などの待遇は十分に検討すべきである。

解雇する場合は1カ月前の通達と退職金が必要となる。退職金の額は特に労働法で定められたものはなく、雇用主の一存による。よい人であれば次の職場への推薦状も書いて与える。

窃盗などが判明した場合は即日退職金なしに解雇できる。また、酒を飲み、雇者の家族に暴力をふるう場合もすぐに解雇できる。ただし恨みを買う場合もある

ため、解雇は慎重に行い、日ごろから使用人とのトラブルはできるだけ避けるよう心がける。

場合によっては、解雇された使用人が労務局に訴えることもあるので、解雇に至った根拠を証明できるようなものを用意しておく。窃盗や暴力などの現行犯の場合は、即日解雇も可能であるが、遅刻やセクハラ、勤務時間中の居眠りなどに関しては、そのつど警告文を出し、警告の回数が3回になると解雇の理由になる。

15-2 運転手

(1) 雇用

個人的に雇用している人は少ない。雇用する際は信頼できる人物を選ぶことが肝要。

(2) 日常管理

運転手のなかにはマトーラ(白タク)を営業する人が多いので、毎日の走行距離やガソリン給油時にリッターあたりの走行距離をチェックすることが必要である。また、車の鍵も運転手に預けたままにせず、車を使わない時は自ら保管すべきである。

(3) 教育指導

速度超過、飲酒運転、車の個人使用などを厳重に禁止する。安全運転を心がけるように指導し、違反に対する監視を怠らない。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

15-3 家政婦／夫

(1) 仕事の種類と人数

家族構成にもよるが、屋内で炊事、洗濯、掃除をするハウスポーイと、庭を手入れするガーデンボーイを1人ずつ雇うのが一般的である。

(2) 雇用

前任者がいる場合には、前任者の雇用していた使用人に問題がなければ、彼らを継続して雇用するのが最も望ましい。自ら使用人を探す場合は、過去に日本人や欧米人などに雇用された経験があつて職を探している人の情報を収集して面接し、決定することが多い。外国人の家庭に雇用された経験のある人は、料理もある程度できる。

求職のため直接家々を訪問して回っている人も多いが、門からなかには入れない。マラウイでは個人の身分証明書は発行されていないので、前雇用主の推薦状、トラディショナルチーフ(村レベルの地域の民生委員のような役割をする人)の名前、身元は確かか、親、兄弟、親戚はどこに住んでいるのか、彼らの職業は何かなどを聞いておく。警察で犯罪歴の有無も確かめておくとよい。また、特にタブーなどはないが、宗教も聞いておくとよい。多くはキリスト教徒である。

雇用の際は、細かな取り決めを明確にしておく意味で、契約書の作成を勧める。

敷地内に使用人用の家がある場合は、防犯のためにも住み込んでもらうとよい。通常、2～3部屋あるので、庭師（ガーデンボーイ）、家政夫（ハウスポーイ）、子守などを住まわせていることが多い。

(3) 日常管理

マラウイでは、使用人の社会的地位は非常に低く、賃金もほかの近隣諸国に比べて安い。通常昼休みは2時間で、土曜日の午後、日曜日は休みだが、頼めば土・日曜日も働いてくれる人が多い。この場合は、追加料金を支払うことになる。

2004年現在、日本人家庭での平均給与は3500～4500クワチャ（約50～60米ドル）／月程度である。昇給は年に1回程度、物価などの相場を見ながら決めていくとよい。

なお、クリスマスの特別手当として、給与1カ月分程度か、それに相当する現物支給（メイズなど）をするのが通例である。また使用人が有給休暇をとる場合、出身地までの1世帯分の交通費を支給する雇用主もいる。

兄弟や親戚の葬式、結婚、見舞いと称する休みの要求や、これにまつわる借金の要望が多いので注意が必要である。

2人以上の使用人がいる場合は、平等に接しないと使用人同士のいさかいが起こるので注意する。ただし、通常はハウスポーイのほうがガーデンボーイよりも相対的に位置づけは高い。

15-4 庭師、ガードマン

治安の悪化に伴い、ガードマンを派遣する警備会社が多数設立された。マラウイ人のまじめな国民性を反映して、どの会社も比較的対応がよい。会社によってサービスの内容が異なるため、サービス内容を十分に確認し最も適したところを選ぶことが肝要である。またそれと同時に、実際に派遣されるガードマン本人をよく観察し、必要に応じて注意、指導することも大切である。特に夜間の門の開閉時などは注意が必要である。

ガードマンに問題がある場合は、派遣会社に連絡して人を替えてもらう。また、毎日ガードマンが替わるのも望ましいことではないので、連絡して対応してもらう。

庭師については、家政婦／夫とほぼ同様である。

16. メディア



16-1 新聞、雑誌

(1) 現地発行の日刊紙

マラウイには、「The Nation（ザ・ネイション）」と「Daily Times（デイリー・タイムス）」の2つの主要新聞がある。「Daily Times」は、Banda（バンダ）政権時代からある歴史の古い新聞であるが、当時から政府批判論調が強いといわれている。両紙とも政治、経済、社会、スポーツを扱う総合的な日刊紙で、価格は1部40クワチャ（約40円、2004年12月現在）。

自宅への配達はないので、スーパーマーケットや露店商などで購入する。

(2) 日本の日刊紙

「朝日新聞」「日刊スポーツ」「日本経済新聞」などの衛星版は、ロンドンから1~2週間遅れで届く。日本から直接発送の場合は、10~20日遅れる。いずれもOCSからマラウイの私書箱宛てに郵送してもらうことになる。ただし、価格は日本の3倍以上である。

各新聞のニュースはインターネットで閲覧できる。マラウイでは国内最大規模のプロバイダーであるMalawi Net(マラウイネット)のほか、wiss(ウイス)などの新規プロバイダーも参入してきている。

・海外新聞普及(株)(OCS)

所在地 : 〒108-8701 東京都港区芝浦2-9-13

電話 : 03-5476-8131

FAX : 03-3453-8091

E-mail : subs@ocs.co.jp

URL : <http://www.ocs.co.jp/>

(3) 欧米紙/誌

『Newsweek(ニューズウィーク)』と『Time(タイム)』は、約1週間遅れで書店に並ぶ。また、リロングウェのアメリカ合衆国情報センター(詳細はイエローページを参照)ではアメリカの日刊紙が、ブリティッシュ・カウンシルではイギリスの日刊紙が約2週間遅れで閲覧できる。イギリス日刊紙の一部は都市の書店やスーパーマーケットでも購入できる。

(4) 日本の雑誌、書籍

日本の出版物が購入できる書店はない。インターネットを利用してOCS(上記(2)参照)やアマゾン(URL: <http://www.amazon.co.jp/>)などに注文する。

16-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

全国向けラジオ局はMBC(マラウイ放送公社)、FM101局、Capital Radio(キャピタルラジオまたはFM102.5局)、ABC(アフリカ聖書教育)の4局がある。24時間放送。使用言語は英語、チェワ語、トゥンブーカ語である。

(2) NHKワールド・ラジオ日本(ラジオジャパン)

周波数は年2回変更されるので、最新の情報を確認するとよい。

<ラジオジャパン問い合わせ先>

NHK国際放送局国際編成部

所在地 : 〒150-8001 東京都渋谷区神南2-2-1

電話 : 海外から : +81-3-3465-1111 (平日/日本時間10:00~19:00)

日本国内から : 0570-066066 (NHK視聴者コールセンター/24時間受付)

E-mail : nhkworld@nhk.jp

<周波数表、番組表の入手>

URL : http://www.nhk.or.jp/nhkworld/japanese/radioguide_j.html

(周波数表、番組表確認)

FAX : +81-3-5454-0888 情報番号260

(日本語放送の周波数表・番組表FAXサービス)

郵送 : 上記NHK国際放送局企画編成部に請求する。(無料)

屋外に市販のコードを20mほど張ると受信状態がよくなる。季節によっては、中近東、東南アジア向けの周波数で受信できることもある。ダイヤル同調式のラジオは選局が難しいので、デジタル表示式のものを用意したほうがよい。

(3) 聴取可能なその他の外国放送

ラジオジャパン以外の日本語ラジオ放送として、23:00に放送される Guam から KTWR (トランス・ワールド・ラジオ: 15485kHz) と 15:00の DW (ドイツ海外放送: 2165kHz) がある。

BBCの英語放送はアフリカ向けとワールド・サービスがともに良好に受信できる。このほか、一日中洋楽を流しているスワジランドのラジオ・ファイブ (4880、11880kHzなど)をはじめ、近隣諸国の音楽放送が手軽に受信できる。

16-3 テレビ

(1) 地上波放送局

マラウイのテレビ局は、TV Malawi (マラウイテレビ) 1局のみ。地元制作のニュース、娯楽、教育番組に加え、南アフリカ共和国資本の African TV、ドイツ、アメリカの英語番組などを24時間放映している。

(2) 衛星放送、ケーブルテレビなど

衛星放送受信用のパラボラアンテナを設置すると、CNN、BBCや南アフリカ共和国の衛星放送会社が放映する娯楽番組(有料)が受信できる。個人でも約6万円の費用で設置でき、利用者は徐々に増えている。また、リロングウェのアメリカ合衆国情報センターでは、アメリカのABCテレビの週間ニュースを毎週火曜日と土曜日に一般公開している。

NHKワールドとNHKワールド・プレミアムは、専用の受像機とパラボラアンテナを設置することで受信できる。NHKワールドの受像機は、現地でも購入可能(約4万円)であるが、NHKワールド・プレミアムは、日本の専門店で注文して取り寄せる(約14万円、受信料は3000円/月)。

<NHKワールドTV問い合わせ先>

・NHK国際放送局国際編成部

所在地 : 〒150-8001 東京都渋谷区神南2-2-1

電話 : 海外から : +81-3-3465-1111 (平日/日本時間10:00~19:00)

日本国内から : 0570-066066 (NHK視聴者コールセンター/24時間受付)

E-mail : nhkworld@nhk.jp

<番組表の入手>

URL : <http://www.nhk.or.jp/nhkworld/>(週間番組表確認)

FAX : +81-3-5454-0888 情報番号258(週間番組表FAXサービス)

<NHKワールド・プレミアム問い合わせ先>

(株)NHK情報ネットワーク「カスタマーセンター」

所在地 : 〒150-8042 東京都渋谷区宇田川町7-13

電話 : 海外から : +81-3-5458-6601

E-mail : premium@nhk-jn.co.jp

<番組表の入手>

URL : http://www.nhk-jn.co.jp/wp/ind_day1.a.htm(週間番組表確認)

FAX : +81-3-5454-0888 情報番号259(週間番組表FAXサービス)

(3)テレビ受信

テレビの受信方式は、PALである。日本からテレビ受像機やビデオデッキを持参する場合は、マルチシステムが適している。マルチシステムのテレビやビデオ、DVD、CDプレーヤーは、現地でも購入できる。

17. スポーツ、 趣味、 語学学習



Yellow Page

17-1 スポーツ

(1)ゴルフ

日本人がよく利用するゴルフ施設は次のとおりである(詳細はイエローページを参照)。

- ・Lilongwe Golf Club
- ・Blantyre Sports Club

(2)テニス、フィットネス

Lilongwe Golf ClubとBlantyre Sports Clubは、テニスやフィットネスの施設も整っている。

(3)その他のスポーツ

該当情報なし。

17-2 趣味

該当情報なし。

17-3 語学学習

(1)語学学習施設

公共、私立ともに、英語や現地語の語学学校はない。

(2)家庭教師

学校教師がアルバイトで教えている場合が多い。新聞広告やスーパーマーケットなどに情報が掲示されている。大学などの掲示板に求人広告を出すのもひとつの方法である。

18. 観光



18-1 地方旅行の留意点

外国人の国内旅行に関する規制はなく、自由に旅行できる。また、地方でも治安は比較的安定しており、特に問題はない。ただし、車両で移動する際は以下に気をつける。

<車両による長距離の移動>

マラウイは道路事情が比較的良好なため、一般国道でも時速100km以上で走行する車も多く、人、山羊などの不意の飛び出しを避けようとして起こる事故が多発している。整備状況のよい車両を借りるとともに、運転手にはあまりスピードを出しすぎないよう厳重に注意すること。また、走行中はシートベルト(法令で着用義務あり)を必ず着用すること。

<ヒッチハイクの危険性>

都市間の公共輸送サービスがそれほど整備されていないことから、ヒッチハイクなど、他人を車に乗せることが日常的に行われている。しかし、車両強盗の多くはこうした見ず知らずの他人を乗せようとして止まった時や、乗せたあとに発生している。他人はもちろん、たとえそれが運転手の知り合いであっても、絶対に乗せてはいけない。

<夜間の移動は厳禁>

夕方以降の走行は昼間以上に事故のリスクが多く、車両が故障した場合に救援を呼ぶ手段も極端に限られているので、明るいうちに目的地へ到着できるように、ゆとりをもった移動計画を立てて行動すること。

旅行の際はパスポート、あるいはIDカードなどの身分を証明するものを常に携帯しておいたほうがよい。主要幹線道路では常に検問を行っており、その際、まれに提示を求められることがある。バスや鉄道でも、常時ではないが、身分証明書の提示、荷物のチェックを受けることがある。一部の道路では、国境線上を通過することになるので注意が必要である。

写真を撮る場合は、軍や警察の施設、空港、大統領官邸、大衆酒場などにレンズを向けてはならない。それ以外の場所であっても、承諾を得てから撮影することが望ましい。

18-2 主要観光地・保養地

<マラウイ湖畔>

マラウイ湖は国土と同様に南北に長い湖である。リゾート地としては、北部のNkhata Bay(ンカタ・ベイ)のチカラ・ビーチ、Chintheche(チンテチェ)、Nkhotakota(コタコタ)、中部のSalima(サリマ)のセンガ・ベイ、Chipoka(チポカ)、南部のMangochi(マンゴチ)のNkopola(ンコポラ)、Monkey Bay(モンキー・ベイ)のCape Maclear(ケープ・マクレア)などがある。

各地にスキューバダイビングのショップもあるが、現在は住血吸虫の感染問題があり、湖に入ることは控えるべきである。また、モンキー・ベイ、チポカ、ンカタ・ベイなどからはIlala(イララ)と呼ばれる船が運航しており、それに乗ってLikoma(リコ



マ)というモザンビーク近くの島に行くこともできる。

主な宿泊施設は次のとおりである(詳細はイエローページを参照)。

- ・Livingstonia Beach Hotel(リビングストーンビーチ・ホテル)
- ・Nkopola Lodge(ンコポラ・ロッジ)
- ・Club Makokola(クラブ・マココラ)

<国立公園>

北部にNyika National Park(ニイカ国立公園)、中部にKasungu National Park(カスング国立公園)、南部にLiwonde National Park(リオンデ国立公園)、Lengwe National Park(レングエ国立公園)、Cape Maclear and Lake Malawi Marine Park(マラウイ湖国立公園)の5つの国立公園がある。

マラウイ湖国立公園を除いた4つの国立公園では、野生動物が見られる。また、ケニアやタンザニアに比べると小規模ではあるが、サファリを楽しめる。各国立公園内にはロッジがあり、専門の旅行代理店などで予約できる。

<登山>

ムランジェ山(標高3002m)のふもとで、ガイドを雇って登山を楽しめる。シュラフ持参で宿泊できる山小屋もいくつかある。ただし、雨季は道が悪いため、控えたほうが無難である。

<その他>

中部のDedza(デッサ、「4-3(1)食器、調理器具などの入手」参照)、北部のNkhotakota(コタコタ)には陶芸ショップと喫茶店がある。工房の見学、陶器の購入のほか、注文制作が可能。両方ともリロングウェから日帰り観光ができる。

18-3 旅行代理店

マラウイには都市部に数十社の旅行代理店があり、国内外の各種パッケージツアーや宿泊の取り扱いを代行している。海外旅行であれば、Soche Tours & Travel(8-1(1)参照)などの代理店が実績がある。ただし、対応は必ずしも迅速ではないので、手配を依頼する場合には適宜督促する必要がある。

国内旅行であれば自分たちだけでアレンジすることも容易であるが、Nyika(ニイカ)など電話によるコンタクトが困難な地域は、Ulendoなどの旅行代理店に手配を依頼したほうがよい。

JICA事務所や日本人がよく利用する旅行代理店は次のとおりである。

- ・Ulendo Safaris
- ・Wilderness Safaris
- ・Lake & Safaris

19. 私財の輸送、 引き取り、 購入



19-1 家財道具

(1) 輸送業者

海路を利用する場合は車の輸送と同様である。陸路輸送に関しては、日本国内の輸送会社が代理店を探してくれる。

アナカン(航空別送便)の場合は、マラウイ到着まで1~2週間かかる。

なお、小口の荷物の場合は、DHLのBOX便が便利である。日本からの場合、40×30×30cm程度の専用の箱を利用し、15kgまで約3万3000円で約1週間以内で届けてくれる。マラウイから日本へ送付する場合は、0.5kg(9326クワチャ)から0.5kgきざみで料金が追加され、5kgだと3万4834クワチャで約1週間以内で届けてくれる。

Yellow Page

Yellow Page

マラウイのDHLについてはイエローページ「17.国際宅配サービス」参照

(2) 輸入手続き

日本からアナカンで送る場合は、旅行代理店に相談・依頼するとよい。荷物到着後1週間程度で引き取り可能である。

引き取りは次の会社が信頼でき、よく利用されている。

Yellow Page

- ・MANICA Malawi Limited(マニカ・マラウイ・リミテッド)
- ・AGS
- ・SDV

(3) 輸入貨物の受け取り港

マラウイは内陸国なので、海路と陸路を利用する場合には、ダルエスサラーム(タンザニア)あるいはダーバン(南アフリカ共和国)の港に陸揚げされ陸送されることになる。

19-2 自動車

(1) 一般状況

前任者から譲り受けるケースを除き、現地の中古車は品質の割に値段が高い。。

(2) 輸入手続き

日本から中古車を送る場合の送料は、車種にもよるが、セダンタイプで40万~50万円である。船積みから陸送してリロングウェでの引き取りまでに、3カ月程度を要するのが一般的である。

(3) 現地での購入

日産、トヨタ、マツダ、その他外国車のディーラーがある。なかでもトヨタが圧倒的なシェアを占めており、市内を走る車の大半はトヨタ車である。スペアパーツの入手がほかのメーカーの車に比べて容易で、整備体制も整っている。

近年は外資系ディーラーの数も増え、各ディーラーは独自にサルーン、4WD車などを輸入しているので、特別なオプションを望まない限り在庫品を求めることができる。入金確認後諸手続きを完了し10日ほどで入手できる。

たとえばリロングウェで在庫品の「トヨタカローラ」を買った場合、新車価格は

1600ccのエアコン付きが200万円程度である。

また、海外工場の在庫の注文もできる。この場合は注文を受けてからの輸送になり、金額は国内でのオーダーとほぼ同じだが、数カ月を要するのが通常である。

現地で自動車を購入する時には、車種だけでなく、信頼性の面でディーラーを慎重に選ぶべきである。購入手続き担当者が代金を持ち逃げしたという最悪のケースも過去にはあった。

(4) 自動車登録

中古車、新車ともに、購入と同時に登録手続きが必要である。また、中古車の場合は売買契約書が必要である。

(5) 免許証取得

日本の免許証からマラウイの免許証への書き替えは可能である。その際、国際免許証を用意する必要はない。また、日本で取得した国際免許証も、有効期限(1年)内であれば問題なく通用する。

(6) 保険、税金

自動車保険の手続きは各自で行う。包括的保険(車両、盗難、第三者)は車種にもよるが、車両価格の20~30%の費用がかかる。これは車両保険が高いためであり、対人だけの場合はそれほど高くはない。

道路税を毎年支払う必要がある。また、セダン車両で購入後10年を経過したものは毎年、また、ピックアップ車両など8人以上の乗客収容可能車両も購入後の年数に関係なく毎年車検を受ける必要があり、費用は1000クワチャかかる。

20. 地方都市



長期派遣JICA専門家や青年海外協力隊員が滞在している地方都市としては、南部の商業都市ブランタイア、旧首都ゾンバが挙げられる。そのほか北部の中心都市ムズも過去にJICA関係者が滞在していたことがある。ブランタイアは、首都と比較して生活物資などの入手がかえって容易で、選択の範囲も広い。ほかの都市では、銀行、商店、娯楽施設などが少なく、選択の範囲も狭まるが、生活する上で大きな支障となることはない。

Part 3 イエローページ

※特に記載がない限り、JICA事務所のあるリロングウェの情報を中心に掲載しています。

1. JICA事務所

所在地	Raza House, Area 13, Plot No.100, City Centre, Lilongwe, Malawi
郵便物宛先	JICA Malawi Office, P.O.Box 30321, Capital City, Lilongwe 3, Malawi
TEL/FAX	TEL: +265-1-771644/771554 FAX: +265-1-771125
URL/E-mail	http://www.iica.go.jp/malawi/about.html E-mail: iicamw@iica.go.jp

2. 日本大使館 ※マラウイには日本大使館がないため、在ザンビア日本大使館がマラウイを兼轄する。

所在地	No. 5218, Haile Selassie Avenue, Lusaka, Zambia
郵便物宛先	Zambia Embassy of Japan, P.O. Box 34190, Lusaka, Zambia
TEL/FAX	TEL: +260-1-251555 FAX: +260-1-253488

3. 緊急連絡先電話番号

在ザンビア日本大使館	TEL: +260-1-251555
警察	TEL: 997
消防	TEL: 999
救急車	TEL: 998

4. ホテル

<Lilongwe (リロングウェ)>

■Capital Hotel(キャピタル・ホテル)

P.O. Box 30018, Lilongwe 3
 TEL: 01-773388 FAX: 01-771273
 使用できるクレジットカード: VISA, MasterCard, Diners, American Express
 E-mail: capitalres@lemeridienmalawi.com

■Lilongwe Hotel (リロングウェ・ホテル)

P.O. Box 44, Lilongwe
 TEL: 01-756333 FAX: 01-756580
 使用できるクレジットカード: VISA, MasterCard, Diners
 E-mail: lilongwehotel@sunbirdmalawi.com

■Korea Garden Lodge (コーリアン・ガーデン・ロッジ)

P.O. Box 2181, Lilongwe 3
 TEL: 01-759774 FAX: 01-756612
 使用できるクレジットカード: なし。現金(米ドルまたは現地通貨)支払いのみ。
 E-mail: kgl@malawi.net
 自炊設備が完備している部屋もある。

■Cresta Hotel(クレスト・ホテル)

P.O. Box X1, Post.net, Crossroads Complex, Lilongwe 3
 TEL: 01-750333 FAX: 01-750336
 使用できるクレジットカード: VISA, MasterCard
 E-mail: cresta@malawi.net

■Lingadzi Inn(リンガジ・イン)

P.O. Box 30367, Lilongwe 3
 TEL: 01-754166 FAX: 01-754129
 使用できるクレジットカード: なし。米ドル、南ア通貨(Rand)、イギリスの通貨(Pounds)による現金支払いのみ。
 E-mail: lingadzi@sdpn.roq.mw

■Riverside Hotel (リバーサイド・ホテル)

P.O. Box 1268, Lilongwe 3
 TEL: 01-750511 FAX: 01-750508
 使用できるクレジットカード: 現金(現地通貨)支払いのみ。
 E-mail: riverside@malawi.net

<Blantyre(ブランタイア)>

■Mount Soche Hotel(マウント・ソチェ・ホテル)

P.O. Box 284, Blantyre
 TEL: 01-620588 FAX: 01-620154
 使用できるクレジットカード: VISA, Diners, Euro Card, American Express
 E-mail: mountsoche@lemeridienmalawi.com

■Ryall's Hotel (ライアルズ・ホテル)

P.O. Box 21, Blantyre
 TEL: 01-620955 FAX: 01-620201
 使用できるクレジットカード: VISA, MasterCard, Diners, American Express

E-mail: ryalls@proteamalawi.com

<Limbe (リンベ)>

-
- Shire Highlands Hotel(シレ・ハイランズ・ホテル)
-
- P.O. Box 5204, Limbe
-
- TEL:01-640055 FAX:01-640063
-
- 使用できるクレジットカード: VISA, MasterCard
-
- E-mail: shire@proteamalawi.com
-

<Zomba(ゾンバ)>

-
- Ku Chawe Inn (ク・チャウエ・イン)
-
- P.O. Box 71, Zomba
-
- TEL:01-514211 FAX:01-514230
-
- 使用できるクレジットカード: VISA, MasterCard, Diners, American Express
-
- E-mail: esme@lemeridiebmaliawi.com
-

<Mangochi(マンゴチ)>

-
- Nkopola Lodge (ンコポラ・ロッジ)
-
- P.O. Box 14, Mangochi
-
- TEL:01-584444 FAX:01-584694
-
- 使用できるクレジットカード: VISA, American Express, Diners
-
- E-mail: nkopola@sunbirdmalawi.com
-
- Club Makokola (クラブ・マココラ)
-
- P.O. Box 59, Mangochi
-
- TEL:01-584244/01-594445 FAX:01-584417
-
- 使用できるクレジットカード: VISA, Diners
-
- E-mail: clubres@malawi.net
-

<Mzuzu(ムズズ)>

-
- Mzuzu Hotel(ムズズ・ホテル)
-
- P.O. Box 231, Mzuzu
-
- TEL:01-332622 FAX:01-332600
-
- 使用できるクレジットカード: VISA, American Express, Diners
-

5. 電話・水道・電気

<電話>

-
- Malawi Telecommunications Limited (マラウイ電話局)
-
- P.O.Box 30500, Lilongwe 3
-
- TEL:01-732677
-

<水道>

-
- Lilongwe Water Board (リロングウェ水道局)
-
- P.O.Box 96, Lilongwe
-
- TEL:01-732766
-

<電気>

-
- ESCOM(Electricity Supply Commission of Malawi, エスコム)
-
- P.O.Box 768, Lilongwe
-
- TEL:01-721788
-

6. レストラン(リロングウェ)

<韓国料理>

-
- Korea Garden Restaurant
-
- Johnstone Rd., Old Town
-
- TEL:01-740123
-
- Koreana Restaurant
-
- Gemini House, City Centre
-
- TEL:01-781004/783723
-
- 7 to 5 Restaurant
-
- Old Town
-
- TEL:01-754018
-
- 昼のみ営業。
-

<中国料理>

■Golden Dragon Restaurant
City Centre、National Library 近く
TEL:01-780414/781301

■Macao Restaurant
Portuguese Club

■Great Wall Old Town

■Myanmar Restaurant
City Centre

<西洋料理ほか>

■Le Mimosa Capital Hotel
TEL:01-773388
西洋料理

■Tidye Capital Hotel
TEL:01-773388
西洋料理

■Buchanan City Centre
西洋料理、パスタ

■Bistro Old Town
西洋料理(ステーキ)

■The Patio Lilongwe Hotel
TEL:01-756333
西洋料理

■Wendel City Centre
TEL:01-770237
ドイツ料理(要予約)

■Mammamia Old Town Mall
TEL:01-758362
イタリア料理

■Modis Stansfield House
TEL:01-751489
インド料理

■The Hut Old Town
TEL:01-752912
インド料理

<ファストフード>

■Nandos Old Town
ハンバーガー

■Burgerland Old Town
TEL:01-725548
ハンバーガー

■Pizzaland Old Town
TEL:01-758787
ピザ

■Ali Baba Old Town ほか
TEL:01-751523
ピザなど

7. レストラン(ブランタイア)

<中国料理>

■Hong-Kong Blantyre
TEL:01-620588

<西洋料理>

■Michiru Restaurant
Mount Soche Hotel
TEL:01-620588

■Gypsy's Restaurant Mount Soche Hotel
TEL:01-620588

■21 Grill	Ryall' s Hotel TEL:01-620955
■Hostaria	Blantyre TEL:01-636025 イタリア料理
■Nook	Shire Highlands Hotel TEL:01-640055
■Greens House	TEL:01-636375

8.スーパーマーケット

■Seven Eleven Area 9, Lilongwe	TEL&FAX:01-758370 営業時間:7:00~21:00(月~日、年中無休) インド系経営の店。アルコール類や豚肉は取り扱いがない。
■Shoprite(Lilongwe)	Old Town (コーチラインバス停近く) TEL:01-759322 FAX:01-759325 営業時間:8:00~19:00(月~金)、8:00~17:00(土)、9:00~13:00(日、祝祭日)。営業時間は、変更になることもある。 食料品から日用雑貨やアルコール類、ペット用品まで取り扱っている南アフリカ資本のスーパーチェーン店。
■Shoprite(Blantyre)	Kamuzu Stadium 近く TEL:01-672199 FAX:01-670522 営業時間:8:00~19:00(月~金)、8:00~17:00(土)、9:00~13:00(日、祝祭日)。営業時間は、変更になることもある。
■PTC(Lilongwe)	Old Town (コーチラインバス停近く) TEL:01-753001 営業時間:7:30~20:00(月~土)、8:00~15:00(日、祝祭日)。営業時間は、変更になることもある。 食料品と日用雑貨を取り扱っている。
■PTC(Blantyre)	Kamuzu Stadium 近く TEL:01-304134 営業時間:8:00~19:00(月~土)、9:00~14:00(土、祝祭日)。営業時間は、変更になることもある。
■Metro(Lilongwe)	Old Town (リロングウェ・ホテル近く) TEL:01-756370 営業時間:8:00~18:00(月~金)、8:00~17:00(土)、8:00~14:00(日、祝祭日)。営業時間は、変更になることもある。 ホールセールショップ(卸売店)。生鮮品以外の食料やアルコール類などを扱っている。ダース単位の販売になるが、スーパーマーケットなどの小売店と比べ若干値段が安い。
■Metro(Blantyre)	Glyn Jones Rd. TEL:01-670822/671944 営業時間:8:00~17:00(月~木)、8:30~17:00(金)、9:00~15:00(土)。金曜の昼食時間(12:00~13:00)は閉店。営業時間は、変更になることもある。 ホールセールショップ(卸売店)。生鮮品以外の食料やアルコール類などを扱っている。ダース単位の販売になるが、スーパーマーケットなどの小売店と比べ若干値段が安い。
■Bisnowaty, Foodworths	Kenyatta Rd., Lilongwe TEL:01-772356 FAX:01-772355 営業時間:7:00~18:30(月~金)、7:30~14:00(土)、7:30~13:00(祝祭日)、日曜は閉店。営業時間は、変更になることもある。 野菜や肉類、アルコール類など輸入品を多く取り扱っている。値段はほかのスーパーマーケットなどに比べて若干高いが、品質のよいものが揃っている。

9. 食器

■Dedza Pottery (デツザ・ポッターリー)

P.O.Box 54, Dedza

TEL:01-220316

営業時間:7:30~17:00。年末年始、クリスマス、一部祝日を除いて年中無休。

テッサ焼きは少々もろいのが難点。

10. 家電製品店

■CES (Consumer Electronic Services)

P.O. Box 478, Lilongwe

TEL:01-756400~2FAX:01-752449

E-mail: ces@malawi.net

ショッピングライトの隣にある。

■Lords Best Collection

P.O. Box 960, Lilongwe

TEL:01-758007~8/755931 FAX:01-758008

E-mail: mizbro@malawi.net

PTCの隣にある。

11. 薬局

<リロングウェ>

■Lilongwe Malawi Pharmacy

TEL:01-755936

営業時間:8:00~17:00(月~金)、8:00~13:00(土)、10:00~13:00(日)

オールドタウンのNico Centre(ニコセンター)内にある。ペニシリン系製剤、ニューキノロン系、「フラジール」などの抗生物質、クロロキン、メフロキン、パルドリンなどの抗マラリア薬も処方箋なしで購入できる。マラウイ国内最大のチェーン店Malawi Pharmacy (ブランタイア、ムズズ、カスングなどにも支店がある)から独立した。

■MAYFAIR Pharmacy

TEL:01-727095

スーパーマーケットShopriteと同じ敷地内にある。インド系の薬剤師が相談に乗ってくれる。

<ブランタイア>

■Pharmatech Limited

TEL:01-620739 FAX:01-620739

E-mail: pharmatech@malawi.net

マウント・ソツェ・ホテルの向いにある。「アースマツ」「アースリキッド」「ごきぶりホイホイ」などを日本の神戸から輸入し販売している。

■One Stop Community Pharmacy

リンベP.O.Box 52509 Limbe

TEL:01-624148、08-860230/825559(Mr.Mataya 携帯)FAX:01-624148

■Michiry Pharmacy

リンベ

TEL:01-621014

One Stop C.P.の裏にある。

12. 金融機関

■National Bank of Malawi (本店)

P.O. Box 945, Blantyre

TEL:01-620622/623135 FAX:01-622907

■National Bank of Malawi (リロングウェ支店)

P.O. Box 123, Lilongwe

TEL:01-750188/750382/752351 FAX:01-752940

■Commercial Bank of Malawi (本店)

P.O. Box 1111, Blantyre

TEL:01-620144 FAX:01-620208

■Commercial Bank of Malawi (リロングウェ、キャピタルシティ支店)

P.O. Box 30386, Lilongwe

TEL:01-770988 FAX:01-773497

13. 船舶予約

■Malawi Lake Service (マラウイ湖船舶会社)

P.O. Box 15, Monkey Bay (本部)

TEL: 01-587731/587309 FAX: 01587359

■Soche Tours And Travel (ソチェ旅行会社)

・Lilongwe支店 Central House, P.O. Box 30406, Lilongwe 3

TEL: 01-772377/771409 FAX: 01771409

・Blantyre支店 P.O. Box 2225, Blantyre

TEL: 01-620777 FAX: 01620440-33

Mount Soche Hotel内にある。

14. レンタカー会社

■Apex Rent a Car

P.O. Box 1132, Lilongwe

TEL: 01-754610 FAX: 01-751430

E-mail: apecars@globemalawi.net

■J&K Car Hire

P.O. Box 2142, Lilongwe

TEL: 01-756591 FAX: 01-750642

E-mail: jkcarhire@globemw.net

■Siku Car Hire

P.O. Box 51033, Limbe

TEL: 01-754786

■Planet Car Hire

P.O. Box 742, Lilongwe

TEL: 01-753121

15. インターネットプロバイダー

■Malawi Net

TEL: 01-624470(ブランタイア)、01-771119(リロングウェ)

料金: 初回登録料は1万3571.35クワチャ、3カ月ごとに1万986.25クワチャ。月額使用料3877.5クワチャ(15時間以内)。

インターネット、電子メールとも利用できる(日本語も使用可能)。法人ユーザーが多い。

■Globe Net

TEL: 01-643730(ブランタイア)、01-754015(リロングウェ)

料金: 時間制限なし。初回登録料は750クワチャ、月額基本料は3000クワチャ。

インターネット、電子メールとも利用できる(日本語も使用可能)。

■Epucilon and Omega

TEL: 01-774444/774446

料金: 電子メールのみ(時間制限なし)は初回登録料30米ドル、月額基本料15米ドル。インターネットサービス(時間制限なし)は初回登録料30米ドル、月額基本料55米ドル。

電子メールサービスのみ、アルファベットのみの使用も可(日本語の送受信には別途ソフトが必要)。

■University of Malawi (Chancellor College)

TEL: 01-524222

料金: 電子メールのみ(時間制限なし)は初回登録料2500クワチャ、月額基本料300クワチャ。インターネットサービス(時間制限なし)は初回登録料2080クワチャ、月額基本料2496クワチャ、年間2万5000クワチャ。

マラウイ大学が運営する電子メールサービス。内容はEpucilon and Omega社と同様だが、料金が安価な分、サービス面では期待できない。

16. 国際宅配サービス

■DHL

・Lilongwe 支店 P.O. Box 30554, Lilongwe

TEL: 01-77269 FAX: 01-772014

・Blantyre支店 P.O. Box 1762, Blantyre

TEL: 01-620688 FAX: 01-620631

17. コンピューター修理会社

■Computer Connections

P.O. Box 31246, Lilongwe
TEL:01-772479 FAX:01-773286

■Computer Solutions

P.O. Box 2598, Blantyre
TEL:01-621888 FAX:01-623278

■Burco Electronics

P.O. Box 266, Lilongwe
TEL:01-771672 FAX:01-771545

■Computer Support Services

P.O. Box 31377, Lilongwe
TEL&FAX:01-754325

18. 教育機関

<現地校>

■Lilongwe Private School (リロングウェ・プライベート・スクール)

P.O. Box 100, Lilongwe
TEL:01-725808

インド系。小学校、中学校、高校がある。

<外国人学校>

■Bishop Mackenzie School (ビショップ・マッケンジー・スクール)

P.O. Box 102, Lilongwe
TEL:01-756364 FAX:01-751374

学費など:入学金(登録料)500米ドル(2000年1月)、授業料(1学期)1970米ドル(2000年1月)。

全校で生徒数は約500人。40カ国の子供たちが学んでいるマラウイで最大の私立校。幼稚園、小学校、中・高等学校があり、教師は全てヨーロッパ人で教育資格を有している。リロングウェ在住の日本人子弟が入学している。入学手続きはいたって簡単で、所定の書類に必要事項を記入し、保護者同伴で校長の面接を受けると、当日からでも入学できる。

1年3学期制で、新学年は9月から始まる。12～1月に3週間のクリスマス休暇、4月に2週間のイースター休暇、6月末～9月初旬に期末休暇がある。また各学期中、中期休暇が4～5日間ある。スクールバスはない。カリキュラムはForm 3、13歳を例にとると、英語、数学、物理、化学、生物、地理、歴史、フランス語、美術、音楽、情報処理、体育である。

■Phoenix School(フェニックス・スクール)

P.O. Box 30376, Chichiri, Blantyre 3
TEL:01-635737

イギリス系。幼稚園、小学校がある。

■St. Andrews (セント・アンドリュース)

Private Bag 211, Blantyre
TEL:01-623688 FAX:01-622368

イギリス系。中学校、高校がある。ブランタイア在住の日本人子弟が入学している。

■St. Andrews International Primary School

P.O. Box 593, Blantyre
TEL:01-633428 FAX:01-623086

St.Andrews の小学校課程が別経営となり分離。

<幼稚園>

■Tom & Jerry Play School (トム・アンド・ジェリー・プレイ・スクール)

Bishop Mackenzie School 近く
TEL:詳細については、Bishop Mackenzie School に問い合わせる。
対象年齢:2～4歳。イギリス系。

19. 図書館

■National Library (ナショナル・ライブラリー)

P.O. Box 30314, Lilongwe
TEL:01-773700 FAX:01-771616

■British Council (ブリティッシュ・カウンシル)

P.O. Box 30222, Lilongwe
TEL:01-773244 FAX:01-772945

20. 欧米紙の購読

■US Information Centre (アメリカ合衆国情報センター)

P.O. Box 30455, Lilongwe

TEL:01-772222 FAX:01-771142

21. スポーツ施設

<ゴルフ>

■Lilongwe Golf Club

P.O. Box 160, Lilongwe

TEL:01-753118 FAX:01-753598

■Blantyre Sports Club

P.O. Box 245, Blantyre

TEL:01-621173 FAX:01-635045

22. マラウイ湖畔宿泊施設

■Livingstonia Beach Hotel(リビングストニア・ビーチ・ホテル)

P.O.Box 11, Salima

TEL:01-263222 FAX:01-263444

■Nkopola Lodge (ンコポラ・ロッジ)

P.O.Box 14, Mangochi

TEL:01-584444 FAX:01-584694

■Club Makokola (クラブ・マココラ)

P.O.Box 599, Mangochi

TEL:01-584244 FAX:01-584417

23. 旅行代理店

■Ulendo Safaris

P.O. Box 30728, Lilongwe

TEL:01-754926 FAX:01-754717

E-mail:lindsay@ulendo.net

■Wilderness Safaris

P.O. Box 489, Lilongwe

TEL:01-771393 FAX:01-771397

E-mail:info@wilderness.malawi.net

URL:http://www.wilderness-safaris.com

■Lake & Safaris

P.O. Box 2140, Lilongwe

TEL:01-754303 FAX:01-754560

E-mail:landlakes@africa-online.net

24. 荷物引き取り会社

■MANICA Malawi Limited (マニカ・マラウイ・リミテッド)

・Lilongwe支店 P.O. Box 30320, Lilongwe 4

TEL:01-760044

・Blantyre支店 P.O. Box 460, Blantyre

TEL:01-661345

■AGS

・Lilongwe支店 Private Bag 283, Lilongwe

TEL:01-759374 FAX:01-759375

E-mail:themanager@agsmalawi.com

・Blantyre支店 P.O. Box 31761, Blantyre

TEL:01-622413 FAX:01-624718

E-mail:agsblantyre@malawi.net

■SDV

・Lilongwe支店 P.O.Box 648, Lilongwe

TEL:01-710233 FAX:01-710083

E-mail:sdvllw@sdvmalawi.com

・Blantyre支店 P.O. Box 838, Blantyre

TEL:01-671555 FAX:01-670240

E-mail:sdvmw@sdvmalawi.com